

## ◎事例設定（障害福祉分野）

■当事者 備前 藤男さん（32歳）

■住所 ○○市△△町××

■ハザード A川洪水浸水想定 0.5～3メートル 地震 最大震度6弱

■心身状況 生まれつき軽度の知的障害がある。5年前に階段から落ち、外傷性脊髄損傷による両下肢機能全廃となった。移動時は車イスを使用。身体障害者手帳1種1級、療育手帳B（知能としては小学校高学年程度）を所持。障害支援区分5。座位で長時間過ごすとは身体に負担がかかるため、横になって過ごす時間が多い。簡単な言葉であれば理解は出来る。コミュニケーションは取れるが、予期せぬことが起きると不安が強くなり、固まってしまう。金銭管理はできないため、母親がしている。

### ■生活実態

- ・築40年の木造平屋の家で、60代の母親と二人暮らしである。
- ・母親は日中、スーパーでパートをしていて元気である。
- ・兄がいるが、県外に住んでおり、結婚している。
- ・藤男さんは、週4日ヘルパーを利用し入浴の支援を受けている。また、週3日は送迎付きで生活介護のサービスを利用している。福祉サービスを調整する相談支援専門員がついている。
- ・入浴や排泄は、支援がないと自力では出来ないためオムツをして過ごしている。
- ・町内会には加入しているが、活動には参加出来ておらず、地域住民との交流は少ない。
- ・相談支援専門員と話をしていた際に、災害時にどうするか相談を受け、避難行動要支援者名簿の関係者への提供及び個別避難計画の作成に理解と同意が本人、母親から得られた。
- ・指定緊急避難場所及び指定避難所は、自宅から500メートルほど離れたB小学校だが、車や自転車の往来が多く、道幅が狭く歩道がない。
- ・アパートから100メートルほど離れた踏切を渡り、そこから150メートルほど行ったところにバリアフリー対応のホテルがある。

### ■町内会長（自主防災組織会長）及び民生委員

- ・防災や福祉活動に前向きである。
- ・年に1回、町内で避難訓練をしている。
- ・避難行動要支援者名簿の把握はしている。

・生活介護…常に介護を必要とする障害者に対して、障害者支援施設等において、主に昼間に入浴、排泄、食事の介護等を行うとともに、創作的活動（レクリエーション等）や生産活動（内職のような作業等）を行う施設。